

## 事業の概況

---

### 組合の取り組み

平成 30 年度は J A 宮城県大会決議に基づき、J A の存在価値、信頼を高め組合員・農業・地域への貢献を確実に実践するとともに、地域農業の振興を基本に「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現のため J A 一丸となって取り組んできました。特に、第六次中期経営計画の 2 年目であることから各部門における重点実施事項の達成に向け取り組んできました。

自己改革につきましては、J A の教育文化活動を通して、地域の方々に J A を理解してもらう活動と組合員・地域住民を繋ぐ協同活動に取り組んできました。

主な事業活動と成果については、以下のとおりです。

### 営農経済部門

#### 〈米穀部門〉

水稲部会と連携し「仙南米」のブランド確立を推進するとともに、生産者手取増大に向けた買取的集荷の拡大に取り組みました。平成 30 年産から生産調整の仕組みが産地主体の取り組みに変わったことから関係機関と連携し、内容や生産調整の必要性の周知に努めた結果、主食用米の米価安定に寄与しました。平成 30 年産米の生産・販売状況については、8 月までの高温多照により作況指数は 102 のやや良となり、集荷数量は 24 万 6 千俵（前年対比 112.8%）、上位等級比率も 86.3% と前年を上回る結果となりました。しかし、平成 29 年産分の不作の影響により前年並みの米価を維持しましたが、販売高は 35 億 29 百万円（前年対比 85.7%）の実績となりました。

#### 〈園芸部門〉

園芸重点作物を中心とした作付推進及び販売強化を図り、販売計画に沿った実績確保に取り組みました。特に、機械化一貫作業体系による園芸作付拡大策については、玉ねぎ、長ねぎを中心に作付面積が 12.7ha に拡大し、ブロッコリーについても取組者が増加し、作付面積が 34.0ha に拡大しました。蔵王梨は、輸出先を香港に変更し販売強化を図りました。園芸作物の生産・販売状況は、春の雨不足、夏の酷暑、秋の台風による風害や定植の遅れなどにより秋冬野菜の生産数量の減少や販売額の大きい梨が春の凍霜害により減収となりましたが、夏秋物の単価高により販売高は 14 億 37 百万円（前年対比 102.8%）と前年を上回る実績となりました。

#### 〈畜産部門〉

宮城県総合畜産共進会肉用牛の部第 3 区で最優秀賞 1 席を獲得したほか、多数の入賞を果たし、全国和牛能力共進会宮城県大会の成績を裏付けるとともに、仙南牛の知名度を向上させることが出来ました。また、販売高は、市況価格が高値安定で推移し、仔牛、肉牛の取扱い頭数は減少したものの、37 億 10 百万円（前年対比 101.0%）と前年を上回る実績となりました。その結果、販売高合計では 86 億 77 百万円（前年対比 94.4%）の実績となりました。

#### 〈生産資材部門〉

生産資材価格の引き下げや省力化資材の普及に取り組み、予約値引き、早期配送値引き、自己取り値引き、大口購買奨励金、決済期限の弾力的運用など、多様なニーズへの対応と生産資材コスト削減を図りました。また、更なる配送コスト削減と安定した供給体制を確保するため、新たな物流体制を検討し、次年度に実現を予定しております。

#### 〈農業機械部門〉

農業機械の展示、実演相談会の開催、機能を厳選した大型トラクターの取扱いをはじめ、農業機械価格の低減、省力化（コスト削減）に取り組みました。

生産資材、農業機械部門の取扱高は、主要農業機械の供給台数の減少や低価格資材の普及等により、取扱高 42 億 70 百万円（前年比 95.6%）の実績となりました。

## 事業の概況

---

### 金融共済部門

#### 〈信用事業〉

地域の金融機関として、インターネットを活用した商品の提供や給与振込、年金振込等の組合員・利用者のメイン化に取り組み、組合員・利用者の皆様の満足度向上を図りました。また、農業や生活に必要な資金の提供を行い、担い手のニーズの把握や相談力強化を展開し、事業伸長に取り組みました。その結果、貸出金残高については、357億円（前年対比100.1%）となり前年を上回る実績となりました。

#### 〈共済事業〉

「3Q訪問活動・あんしんチェック」による既加入者の保障拡充や「はじまる活動」による未加入者（次世代層）との関係づくりに取り組み、「ひと・いえ・くるまの総合保障確立」に向けた推進活動を展開して組合員・利用者へ「安心」と「満足」を提供しました。その結果、長期共済新契約高は671億86百万円の実績となり、特に生命系共済契約高は40億58百万円（前年対比113.4%）となりました。

### 管理部門

平成30年度は第六次中期経営計画の第二年度にあたり、地域に根ざした協同活動の実践強化と組合員・地域住民を対象にした教育文化活動を展開しました。

#### 〈協同活動〉

各地区に設置した地域活性化委員会を基軸に、四季折々の交流イベントを開催し、JAと組合員・地域住民が一体となった活動を展開し、特に、多くの地域住民や女性が参加する「生活座談会～虹色テラス～」は、女性の声をJA運営に反映させる取り組みとして活発な意見交換が行われました。また、「女性大学輝楽里」においては、趣味・文化・教育をテーマにした講話のほか、管内農業の状況やJA事業について理解を深めていただく研修も開催し、地域住民との関係強化を図りました。さらに日頃よりJAを支えていただいている組合員への感謝を込めた芸能歌謡ショー「組合員感謝の集い」を開催し、楽しいひとときを提供することができました。

#### 〈組織活動〉

JA女性部・青年部合同の「あぐりキッズ農業体験かべ新聞コンクール」を開催し、組合員をはじめ、地域の方々との交流を通して、地産地消活動の重要性を訴えました。

JA青年部においては宮城県手づくり看板コンクールで川崎地区青年部が最優秀賞を受賞したほか、平成30年度東北・北海道地区JA青年大会の組織活動実績発表で、村田地区の渡辺修一さんが優秀賞を受賞しました。JA女性部においては家の光記事活用発表宮城県大会で村田地区の吉野美智子さんが最優秀賞に輝き、県代表として全国家の光大会で発表する等、各組織が快挙を成し遂げました。

施設整備においては、組合員、地域住民へのサービス向上を図るため、総合会館ウラ・さくらの改修を行ったほか、遊休資産の賃貸への有効活用及び減損対象施設の解体等により、財務改善を図りました。

平成30年度事業活動の成果については、組合員の皆様がJA事業を積極的に利用していただいた結果であり、事業利益は1億98百万円、当期剰余金は51百万円を計上することができました。

これもひとえに組合員の皆様のJA活動に対するご理解とご協力の賜ものであり深く感謝申し上げます。ここに平成30年度の事業概況を報告いたします。